

ヒトは複雑な環境や条件とともに生物の進化や順応が重なり、紆余曲折の末に二足立位や歩行に至ったものと考えられます。ヒトはこのおかげで発達した脳と巧緻性に優れた上肢機能に恵まれ、今日のように多種多様な学芸術をたしなみ、仕事をこなし、趣味に興じる質の高い生活が行えます。しかしながら、進化の長い歴史が物語るように、もともと縦長の構造物を限られた接地面積で安定させたり（立たせたり）、動かしたり（歩かせたり）することは容易なことではありません。近年話題に挙がる二足歩行ロボットについても、立位歩行のメカニズムの観察に始まり、その法則や理論を算出し、理想的な材質をもとに柔軟性のある関節運動機能や情報伝達系統を探索しなければならず、単に平地を歩くという動作だけでも開発には積年の苦勞が凝縮しています。今では感覚センサーの発達もあり、凸凹道や雪道なども歩行でき、転倒しても復帰できる驚くべき二足歩行ロボットも登場するようになりました。これらの研究には、とりわけ適切な重心移動とバランス制御が重要であり、やはりヒトから得られたデータの集積と解析が役立っています。無理なく立てることと歩けることは決して凡常なことではなく、無意識に行っている姿勢や動作が、実は崇高で緻密な科学の上に成り立っています。

さて今回のテーマは、高齢者の脊柱変形であり、高齢化が加速する社会で看過できない脊椎脊髄分野のトピックです。脊柱変形の進行は姿勢や歩容の異常だけではなく、頸部痛や腰背部痛、神経脱落症状、胸腹部臓器障害などの多くの不利益をもたらします。治療には集学的な知識と豊富な経験が要求される難解な病態であり、学会や研究会でも話題は尽きません。本特集はまさに、理想的な脊柱バランスに言及し脊柱変形に伴うさまざまな問題とその対策に焦点を当てたタイムリーな企画です。一方、最新の知識と手術技術を導入しつつも、脊柱の変形矯正手術を選択するにはまだまだ侵襲性は高く合併症も憂慮されるため、優先的に解決すべき患者愁訴と許容される手術侵襲度を見極めなければなりません。したがって、より快適な生活を過ごすための“背骨のあり方”を目指しながらも、術中術後の有害事象を考慮する必要がある、施術者にとっても手術効果と弊害のバランス感覚が要求される難しい疾患です。

本特集は高齢者脊柱変形の診断治療を網羅しており、症例に悩んだとき、困ったときに紐解くべき大切な一冊となることと思います。高齢化社会において大変重要なテーマを企画編集された松山幸弘先生と徳橋泰明先生、貴重な情報を提供していただいた執筆者の先生方にあらためて深謝いたします。

(高橋敏行)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹
高橋 昭 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 安藤哲朗 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 30 No. 4

(2017 年 4 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 5,400 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 30,700 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当：山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2017,

Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。